

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘 (1階)		
所在地	小樽市長橋2丁目2番4号		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000721&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームで、毎年夏になるとホーム前の芝生では焼肉パーティーが恒例となっています。そこには穏やかに自分らしく過ごされている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市の高台の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。居間からの眺望が良く、遠くに海や山を見ることができ、居心地良く過ごすことができます。建物は清潔で、居間やトイレ、風呂などが広めに造られ、職員の事務スペースも見通しの良い場所に置かれています。職員が利用者に優しく親しみやすい言葉で接し、利用者も明るく和やかに過ごしています。近隣のグループホーム同士で、お互いの祭りに参加したり、防災協定を結ぶなどの交流や協力が行われています。また、音楽療法や踊りのボランティアの訪問もあります。美容室や映画、趣味の会合など、個別の外出支援も行っています。介護計画は、利用者の思いや意向を把握し、家族や職員の意見を集約した計画が作成されています。週に1回の往診や、職員としての看護師の確保など、医療面でも安心できます。災害対策や外出支援の充実など、昨年の外部評価に対しても、サービス向上への積極的な取り組みが行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネーム裏に理念を掲載し業務に携わる前には必ず読み返し業務が終了した後も理念を振り返りケアに反映している。	理念の中に「地域に溶け込み、住民との交流を深め」という文言を加え、地域密着型の理念として確立しています。理念は共用部分に掲示したり、名札の裏に記載し、全体会議でも確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行われる廃品回収や子供みこし、ゴミ拾い等参加し手伝いをしている。 ホーム前が休憩場所になっているので入居者の皆様と子供たちが話をされ交流を深めている。	町内会に加入し、廃品回収やゴミ拾いなどに参加しています。ホームが、祭りの際の子供神輿の休憩場所になっています。音楽療法や踊りのボランティアがホームを訪れ、利用者を楽しませて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々には現在の所認知症についての理解がなされていないがホームの行事に参加するよう回覧板などでお知らせしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度に運営推進会議を開催し現在取り組んでいる事を報告して助言をもらったりしている。また話した内容は記録し職員全員へ周知して今後のサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、消防署などの参加を得て、防災や行事、地域交流などをテーマに活発な意見交換がされています。しかし、家族の参加が少ない状況です。	会議への家族の参加を呼びかけるとともに、参加できない場合でも事前に意見を頂いたり、会議の議事録を家族に送付して、理解を得るなどの取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かわからないことがある時は電話をしたり出向いたりして相談しています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員や消防署、警察署の参加を得ています。法人の職員が市役所に出向いたり、ホーム長が疑問点を市役所に問い合わせています。認知症サポーター養成研修の協力も行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に積極的に職員に参加してもらい会議などで職員全員に認識している。	身体拘束ゼロの手引きを参考に、外部研修や内部の勉強会で理解を深めています。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りができます。外出が分かるようにセンサーを設置しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しているので職員全員に周知している。また研修会等にも積極的に参加しているのでその都度勉強会を実施し周知徹底している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要とする入居者様が入所されているので随時後見人の方と話し合って支援に向けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には御本人、御家族にはわかりやすく説明している。 入居者様の立場になって不安な事を聞き説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の会話の中から表情、態度、言葉からその方の思いを感じ取りカンファレンスをユニットごとに話し合いをし、また面会時等御家族と話す様にし、御意見箱を設置し意見交換出来る体制をとっている。	家族の来訪時に意見を聞き、得られた意見は申し送りやミーティングで共有しています。玄関には意見箱を設置しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日職員とコミュニケーションをとるよう心がけている。また表情をみて何かある時は意見を聞いている。	月1回全体会議を行って、様々なテーマで意見交換しています。ホーム長は必要に応じて、職員と個別に面談しています。職員は広報やレクリエーション、環境美化、感染症予防などの委員会に参加し、役割を分担しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修に受講できる様にしている。また資格取得に支援しスキルアップが出来る環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設で行われる研修会に積極的に参加しまた職員全員に報告書としてまとめて回覧し時には全体会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したり同じ町内会のグループホームの祭りや避難訓練に参加したりして交流を図りサービスの質を向上するようにしている。またグループホーム相互研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人に会って御本人の思いや願い、不安などを聞き安心して頂けるように信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っていること、不安なことまたは要望を受け取り意向に沿う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族や入居者様の思いや願いを実現できる様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の思い、不安、喜び等を共感し信頼関係を作り和やかな生活が出来るように築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の暮らしを文章化してお知らせしたり面会時や広報を通じてお知らせした行事に御家族を誘ったりしながら御家族との関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の希望に応じて買い物、映画、短歌の会、墓参りなどの外出を支援支援している。	知人や友人の来訪を歓迎し、電話や年賀状のやりとりも支援しています。美容室や映画、短歌の会、作業療法、日帰り温泉など、希望に応じた個別の外出も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時、おやつやコーヒータイムの時職員も会話し入居者様同士うまくいくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている入居者様をお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情から思いをくみとり意向を把握しまた御家族から御本人の希望をや思いをお聞きしています。	思いを表現するのが難しい方は一部ですが、問いかけた時の反応や表情、態度などから、意向を把握しています。生活歴シートやバックグラウンドシートに情報を蓄積し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の出来る事を日々の生活の中から見極めその人らしい生活を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを作成する時は職員全員の意見を反映させカンファレンス、モニタリングで評価を見直しして作成している。	毎月のようにカンファレンスを行い、3ヵ月毎にモニタリングを行って、介護計画を見直し作成しており、計画は利用者や家族に説明されています。日々の記録は計画を参照し、意識しながら記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人別にてファイルに保存し御本人の出来事、話された事をそのまま記録し必要とならば申し送りノートへ記載しそれをもとに介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や病院送迎、24時間の面会、御家族の宿泊など柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、町内民生委員とお話の樹会を設けている。近隣のグループホームのお祭り、避難訓練に参加したり地域との協力体制をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、入所される前のかかりつけ医院に受診している。また週に1回内科往診、必要であれば歯科往診も受けている。	協力医療機関による週1回の往診を受け、かかりつけ医の通院支援も行っています。受診記録を取り、必要に応じて家族に報告しています。ホームの看護師による週2回の健康チェックも行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており24時間体制で連携をとっており相談、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時はその方の情報提供し入院中はお見舞いし御家族と話しており退院時は支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があるごとに医師、看護師、御家族と話し合いの場を設け御本人の思いを尊重し職員全員で支援している。	利用開始時に「重度化した場合における指針」と「看取りに関する指針」を説明し、書類を取り交わしています。過去に看取りの経験もあり、医療関係者と職員、家族とも方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間救急での対応、火災時の対応マニュアルを作成し月2回ほどシミュレーションを行い全職員に周知している。AED講習会や救急講習等職員全員研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を夜間を想定して実施しており町内会の人達にも消火器訓練に参加して頂き協力を呼び掛けている。また、近隣のグループホームとの協力体制により避難場所を確保している。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署や地域住民の方々との協力体制を築いています。救急救命訓練の受講や、災害時の備品の準備も適切にされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切でない言葉使いは職員お互いに注意し、1週間に1回ごとに自分を振り返るアンケートに記入している。	利用者への呼びかけは「さん」付けを基本にし、人格を尊重した声掛けを行っています。不適切な言葉掛けがないか、職員が自分たちで反省し、勉強会を行っています。個人ファイルは事務室で適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々と提案し入居者様御自身に選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩またビデオを借りに行ったりと希望があれば対応しその方のペースに合わせて観たいテレビがあれば遅くまで観たりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みの服装を着て頂いたり1ヶ月半に1回ホームに床屋さんに来ています。また希望により毛染めへの支援も心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、食器洗い等見守りをしながら行っており職員は入居者様の間に入り一緒にお話しながら楽しく食事し誕生日にはお好みの物を提供しています。	利用者と職員が楽しく会話しながら一緒に食事をしており、調理や後片付けに利用者が参加しています。誕生日には、例えば赤飯や鳥のから揚げなど、一人ひとりの希望に応じてメニューが変更され、提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事量、水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて歯磨きを実施し職員の見守り、介助をしている。就寝前には義歯洗浄し保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し声掛けにてトイレ内にて排泄できる様トイレ誘導をしている。	自力でトイレに行ける利用者が多いですが、誘導が必要な方は、排泄チェック表を作成しパターンを把握して、プライバシーに配慮しながら誘導しています。リハビリパンツ利用者も、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や運動を声掛けして参加して頂いている。起床時に冷たい牛乳、お水を飲んで頂いたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される際には体調の確認をし入浴して頂いている。毎日入浴を好む入居者様には入浴して頂いている。	日曜以外の毎日、午前・午後とも入浴することができます。利用者が週2回以上入浴できるようにしています。入浴を拒む利用者には、足浴や清拭で清潔を保持しています。重度の場合は、職員2名体制で入浴介助をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか眠れない入居者様に居間にて職員とお話したり温かい牛乳を飲んで頂くようにしている。またお腹が空いたと話される入居者様にはおにぎりを食べて頂いたりして支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり入居者様が服用している薬の一覧表を作成し服用して頂く際は御本人と名前を確認し手渡しし薬を服用して頂きチェック表に書き込み確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備やおしぼり洗いをして頂いて感謝の言葉を伝えている。作業療法に参加して頂き気分転換の支援の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日にはホーム周辺の散歩、体操等楽しんでいます。また御本人の希望される温泉に行きたい、家に行きたいという外出については計画をたてて支援しています。	日常的に近くの寺への散歩、前庭の雪かき、喫茶店や美容室への外出を行っています。年間行事では初詣や花見、ぶどう狩り、紅葉見学、大型ショッピングセンターへの買い物など、外出の企画を立て、実現しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自身でお金の管理が出来る方は病院受診後買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせられる花を飾っている。料理の際にも季節を感じさせる食材を取り入れている。	高台に位置しているため、広いリビングの窓からの眺望が良く、海や山を見ながら過ごすことができます。壁には利用者の作った短歌や季節の装飾、絵画などが豊富に飾られ、親しみやすい雰囲気となっています。風呂やトイレも広く清潔です。加湿器や空気清浄器を導入し、衛生環境の保持にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下側に椅子を置き1人で過ごしたり仲の良い入居者様同士お話できるスペースがある。 また喫煙される入居者様には喫煙場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れている物、馴染みの物等居室に置かれている。また仏壇を持ってこられている入居者様もいる。	居室にはテレビやたんす、戸棚など、馴染みの生活用品が持ち込まれ、居心地良く過ごせる場所となっています。壁もカレンダーや家族の写真など、自由に飾り付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安定な歩行の入居者様には手すりを使用している。また環境が適しているか見直しをし自立への配慮をしている。		